

時の足跡をたどる 本町周辺の歴史

区内には、名所旧跡や文化財が数多くあります。
今号では、本町周辺の歴史を紹介。身近にある中野の歴史に触れてみませんか。

は、4・5ページで詳しく紹介します

金色に輝く仏舎利塔が特徴

慈眼寺

室町期に桃園辺りで創建され、江戸期にこの地へ移転。かつて青梅街道から追分通りへの分岐点にあった道しるべの馬頭観音がここで祀られています



▲旧本堂(「中野町誌(1933年発行)」から引用)

中野通り
新中野駅

ガス灯

明治期の夜の暮らしや商業活動を支えました

ともえや
五柱五成神社

百貨店の先駆け

阿波屋

明治期、大染物商として創業し、衣料品や家具など幅広い商品を扱う地域の商業の中心でした。後の百貨店の先駆けともいわれています



▲当時の様子(鍋横観察隊提供)

鍋屋横丁

江戸期、参詣客でにぎわい、茶屋が立ち並んでいました

むさしの玉屋

あぶまた味噌



中野新橋

昭和期、この辺りは花柳界として栄え、三味線や芸妓の唄声でにぎわいました



圧倒的シェアで地域を支えた

山政醤油醸造所

明治期、広大な土地で醤油を醸造し、中野の醤油生産の約8割を占めていました。明治を象徴するレンガ造りの塀の一部が今も残っています



▲明治期の様子

まちの中心を支えた寺院

宝仙寺

平安期、源義家により現在の阿佐ヶ谷に創建され、室町期にこの地へ移転。明治期には境内に中野町役場が置かれ、地域の中心として機能しました。江戸期建立の三重塔は戦火で焼失し、後に再建されました



▲焼失前の三重塔(※)

象が中野に!?

象小屋

江戸期、ベトナムから徳川吉宗に献上された象が長崎から江戸に来たあと、ここで飼育されました。死後、象の牙は宝仙寺に保存され、この地には象小屋があったことを示す説明板が立っています



成願寺

中野坂上発・幻の「浅田ビール」

浅田ビール工場・浅田銀行

明治期、横浜に日本初のビール工場が誕生。その機械を購入し、中野でもビール醸造業が始まりました。その後、吸収合併が繰り返され最終的にはキリンビールの傘下。同時期、浅田銀行も設立され、経済の発展に貢献しました



©キリンホールディングス(株) 蔵

相生橋

明治期以降、製粉業を支える水車がいくつも設けられました。大八車を引いた農家の往来が激しくなり、耐久性のある橋へと改修されました



大正期の成願寺付近の牧場(※)▶



直径約2メートルの石臼が残る

石森製粉所

明治期に創業。神田川の水を利用し、水車で石臼を回す。そば粉の製粉が盛んでした。多摩地方などから玄そばを仕入れ、石臼で丁寧に挽いたそば粉は、当時都内のそば店に供給されていました。現在は全国へ出荷されています



▲大正期の様子(※)

※©でじなか ちいきの写真と図書のアーカイブ

次のページで、今も残る本町歴史名所を紹介します